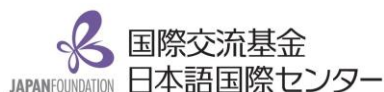


## 学習を評価する

### Unit 1 準備編 Part 1 「学習を評価する」とは



#### はじめに

「学習を評価する」ことは、教師の大切な仕事の一つです。学習を評価して初めて、学習者がどの程度学んだか、また、教えた内容や教え方が適切<sup>てきせつ</sup>だったかを確認できるからです。このパートでは、「学習を評価する」とは何をすることなのか、評価にはどのような種類があるのかを理解します。

#### ◇キーワード

どうたつどひょうか じゅくたつどひょうか  
到達度評価・熟達度評価

評価の方法

たしや  
他者評価・ピア評価・自己評価

しんだんてき けいせいてき そうかつてき  
診断的評価・形成的評価・総括的評価

そうたい ぜったい こじんない  
相対評価・絶対評価・個人内評価

#### 1. 「学習を評価する」とは

「学習を評価する」という言葉は、「テストをして、点数をつけること」「学習者に成績を付けること」「教師がテストの結果やレポートを見て、コースの内容とか授業の仕方を点検すること」など、いろいろな意味で使われることがあります。このコースでは、学習者の力を測ったり、学習<sup>じょうきょう</sup>状況について情報を集めたりして、その結果から学習者がどの程度学習できているのか判断をすること、という意味で使います。

## 2. 評価の対象：何を評価するのか

「何を評価するか」という点から、評価は到達度評価と熟達度評価に分けることができます。到達度評価は「一定の範囲の内容がどのくらい身に付いたか」を評価するものです。カリキュラムに沿って行われた教育活動の成果を確認するもので、授業で学習した内容や、教材の範囲を決めて、コースやクラスの中で行われます。

一方、熟達度評価は「その言語についてどのくらい知識や能力を持っているか」を評価します。個人の学習歴や教材とは関係なく、広い範囲の知識や力をどの程度持っているのかを確認するためのものです。

【タスク 1】 次のテスト・試験は、到達度と、熟達度のどちらを評価するものでしょうか。

- 1 日本語能力試験 (JLPT)
- 2 Oral Proficiency Interview test (OPI)
- 3 学期末テスト

このコースでは、日本語を教える多くの先生にとって、身近で重要な、到達度評価について、その方法や内容を考えていきます。

### 3. 到達度評価の方法

到達度評価を行うには、コースで学習した結果、学習者が目標にどの程度到達したのかを評価しなければなりません。その方法にはいろいろあります。

まず、テストは多くの学校や機関きかんで使われています。複数の学習者全員を同じ条件と基準じょうけん きじゆんで測りますから、客観的で公平な結果こうへいが得られます。また、作文や発表によって、学習の達成度きやっかんを評価することもあります。

さらに、授業中の学習者を観察かんさつして評価することもあります。授業中の様子を録画・録音したり、メモで記録きろくしたりして、よくできる点や、学習者にとってまだ難しい点を知ることができず。

欠席けっせきが学習に与える影響が大きい場合には、どのぐらい授業に出席しゅっせきしているかで、学習の評価を行うこともあります。

ポートフォリオ評価という方法もあります。ポートフォリオは、学習の過程や成果の記録を保存ほぞんしたファイルのことです。これを使った評価の方法については、Unit2で詳しく扱くわいます。

【タスク 2】 上の説明文から、到達度テストの例を書き出してください。そして、あなたが使ったことがある方法に○をつけてください。

#### 4. 評価者：だれが評価するのか

評価と言えば、教師などの自分以外の誰かが行う**他者評価**を思い浮かべることが多いかもしれません。しかし評価は他者によるものだけではありません。作文や発表について、評価するポイントや基準を決めて、学習者同士で**お互い**を評価する**ピア評価**をすることもあろうでしょう。ピア評価が他者評価と違う点は、学習者が仲間と**お互いに責任**をもって評価を行うところ

学習者が自分で評価を行う、**自己評価**もあります。**経験**がないと、慣れるまで時間がかかったり、他の人から評価してもらう方が楽だと感じたりするかもしれません。しかし、学習は学習者自身のものですから、自己評価の力を身につけることは、自分で**効果的**に学習を進めていくために必要なことです。

【タスク 3】 自分のクラスで行ったことがある評価を思い出してください。何についての評価

を行ったのか、**具体的な内容**を書いてください。（例；授業中のスピーチ、漢字）

他者評価	
ピア評価	
自己評価	

## 5. 評価の時期と目的：いつ、何のために評価するのか

いつ、どんな目的で評価するかという点から評価の種類を整理します。

一人の学習者が、ある日本語コースで学習し、終了していく場合を考えてみましょう。

コースの開始前や学期の初めに、学習者の日本語力を知るために評価を行うことがあります。これを診断的評価といいます。学習者に合ったクラス、教え方や内容を決めるための資料になります。

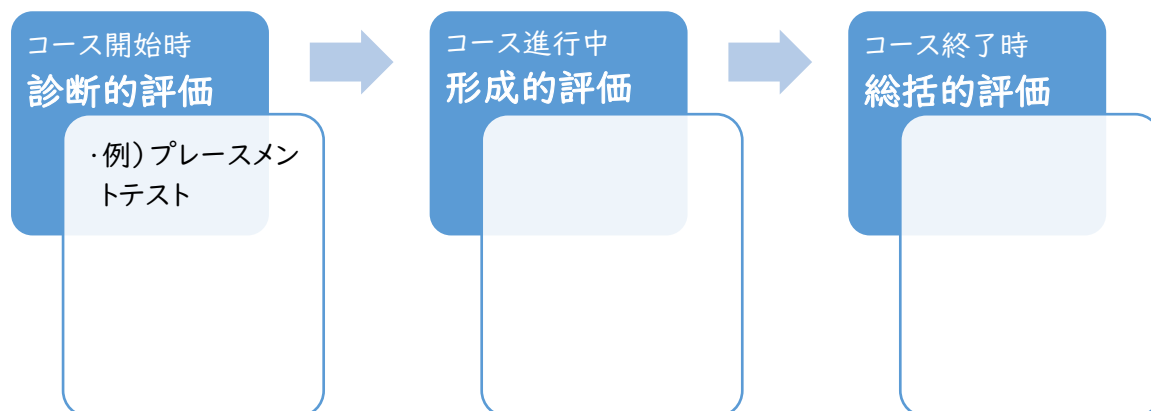
次に、コースが進んでいる途中では、学習者がどのくらい学習できているか、到達度を確認するのが形成的評価です。中間テストやクイズを行ったり、面談を行ったりすることがあります。形成的評価の結果から、学習者は自分の達成度を確認し、学習意欲を高めたり、学習方法を見直したりできます。また教師は学習者に必要な指導を確認したり、それまでの教え方が適切かを判断して、授業の内容や進め方について考え直したりすることができます。

コース終了時など、学習の最終段階では、学習の成果を総括的評価によって確認します。学習目標がどの程度達成できたのかを確かめるための、期末テストや終了テストなどはこれにあたります。成績をつけたり、進級できるか確認したりする目的のために使われることがあります。

3つとも、その時の学習状況を確認するための評価で、結果を教育と学習の改善に役立てることが目的です。

【タスク 4】 あなたのコースでは時期と目的に合わせてどのような評価を行っていますか。

書いてください。



## 6. 評価の基準<sup>きじゆん</sup>: どのような基準で評価するのか

何を基準にするかという点から評価の種類を分けてみましょう。3人の先生が、自分が行っている評価について説明しています。評価の基準はどう違いますか。



高橋先生: テストの結果、学習者の順位<sup>じゆんい</sup>にしたがって、「5番までの人=A」「6番~15番=B」

「それ以下の人=C」のように評価します。



鈴木先生: コースの目標を達成できるかどうかを評価します。合格者数<sup>ごうかく</sup>は決まっています。



小林先生: 学習者がどのぐらい伸びたか<sup>の</sup>を評価します。コースの最初と比べて、最後のテスト

結果がどう変わったかを見ます。

評価は、基準によって、<sup>そうたい</sup>相対評価・<sup>ぜったい</sup>絶対評価・<sup>こじんない</sup>個人内評価の3つに分けることができます。

<sup>しゅうだん</sup>相対評価は、ある集団の成績を基準にするもので、高橋先生の方法です。試験の点数の

上位 15 パーセントを A、次の 20 パーセントを B などのように、ある集団の中で、学習者がどのレベルにいるかを示すことができます。「クラスで 5 番」とか、偏差値<sup>へんさち</sup>65といった数字で表され、評価者の主観<sup>しゅかん</sup>が入ることはありません。しかし一人の学習者がどのくらい努力<sup>どりょく</sup>したのかは評価できません。教え方によって学習者の出来具合<sup>できぐあい</sup>がどう変わるかも分からないので、教授法の改善<sup>かいぜん</sup>につなげることができません。また、別の学習者集団との比較<sup>ひかく</sup>ができません。

**絶対評価**というのは、鈴木先生の方法で、学習目標の達成度を基準にした評価です。合格・不合格で示したり、ABC などで目標の達成度を示したり、点数で示したりする方法があります。TOEFL や TOEIC などは絶対評価です。相対評価と違って、試験の成績が良い人が多ければ、たくさんの方が A ランクがもらえ、学習者の努力<sup>はんえい</sup>が評価に反映されます。

3 つ目は**個人内評価**です。小林先生のように、ある学習者の成績<sup>かこ</sup>を過去と比べたり、技能<sup>ぎのう</sup>別に比べたりする評価です。コースが始まる時の成績と、コースが終わった時の成績を比べて伸び<sup>へつ</sup>を評価したり、読解と会話のテスト結果を比べて、会話の力の方が伸びたと評価したりします。クラスの中には様々な力を持つ学習者がいますが、それぞれの学習成果や、学習過程を正しく、公平に評価するための方法だと言えます。

【タスク 5】 これまで、どのような評価基準で、何の評価を行ってきましたか。自分の実践<sup>じっせん</sup>を思い出して書いてください。

## 7. 評価は何に役立つのか

最後に、学習者と教師それぞれにとって、評価を何に役立てられるのか確認しておきます。

学習者は、評価によって、自分ができると、まだよくできないことを確認でき、自分の学習の計画や、学習の仕方を見直すことができます。また足りない点についての指導を教師から受けることができます。評価の結果によって進級や資格の認定<sup>にんてい</sup>を得られる場合もあります。

一方、教師は評価を通して、教えた結果を知ることになります。もっと指導が必要な点ばかり、授業の内容や方法、スケジュールなどを見直すこともできます。

評価は、学習者を支援<sup>しえん</sup>するために、とても大切で必要なものです。

【タスク 6】 このPartの内容を参考に、評価の種類を整理して、下表に書き入れてください。

対象	
方法	
評価する人	
時期・目的	
基準	



## まとめ

「学習を評価する」とは「学習者の力を測ったり、学習状況について情報を集めたりして、学習の過程と成果を確認すること」を言います。評価はさまざまな点から整理することができます。このコースでは到達度評価を扱います。

評価の結果により、学習者は学習の成果を知り、その後の学習に役立てることができます。教師にも重要な情報が得られます。

## ■ このパートの参考文献

- 国際交流基金(2011)『学習を評価する』(国際交流基金日本語教授法シリーズ  
12)ひつじ書房
- 近藤ブラウン妃美(2012)『日本語教師のための評価入門』くろしお出版
- 関正昭・平高史成編(2013)『テストを作る』スリーエーネットワーク

## ■ タスクの答え

## 【タスク 1】

- 1 日本語能力試験 (JLPT) … 熟達度
- 2 Oral Proficiency Interview test (OPI) … 熟達度
- 3 学期末テスト … 到達度

## 【タスク 2】～【タスク 5】 省略

## 【タスク 6】

対象	到達度評価 熟達度評価
方法	テスト、作文や発表、学習者の観察、出席、自己評価、ポートフォリオなど
評価する人	他者評価 ピア評価 自己評価
時期・目的	診断的評価 形成的評価 総括的評価
基準	相対評価 絶対評価 個人内評価